

営農情報（水稻）

令和3年7月発行

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

1 生育概況

今年の田植えは、6月19～24日頃を中心に行なわれました。6月は比較的好天が続き、苗の活着は概ね順調です。初期除草剤の散布が遅れているほ場では、雑草が多発する可能性があります。よく観察し、除草や施肥、防除等、適期作業に努めましょう。

2 中・後期除草剤

雑草が残っている場合は、雑草の種類に応じた以下のいずれか1剤を下記の要領で散布します。

雑草の種類	薬剤名	散布量 (10a当たり)	散布方法	使用時期	備考
イネ科 ・広葉雑草	ワイドショット 1キロ粒剤	1 kg	湛水散布	移植後15日～ ノビエ4葉期 収穫45日前まで	
	クリンチャー バスME液剤	1,000ml (水100Lに希釈)	落水または ごく浅く湛水 して散布	移植後15日～ ノビエ5葉期 収穫50日前まで	・展着剤は加用しない
イネ科雑草	クリンチャー 1キロ粒剤	1.5 kg	湛水散布	移植後25日～ ノビエ5葉期 収穫30日前まで	・キシウズズメノヒエ に適用あり

3 水管理

- 倒伏防止のためには、水管理が最も重要です。必要茎数（20本/株程度）が確保できたら、早めに中干しを実施します。特に、「元気つくし」の倒伏防止のためには適期中干しが重要です。
- 中干し後は、間断かん水を行います。なお、中干しが不十分なほ場や、葉色が濃く倒伏の恐れのあるほ場では、強めの間断かん水を行ってください。
- 穂ばらみ期から穂揃期にかけては、最も水分が必要な時期なので出穂前後1週間ずつは湛水します。

4 穂肥

穂肥時期の目安と施用量は、以下のとおりです。適正粒数確保と充実向上のため、水稻の生育に応じて適切な肥培管理を行います。

品種	出穂期 目安	穂肥1回目		2回目	
		目安時期	10aあたり施用量(kg) NK7号	時期	10aあたり施用量(kg) NK7号
元気つくし	8/20頃	8/4頃	15	1回目の7日後	10
ヒノヒカリ	8/27頃	8/9頃	20	なし	—
ツクシホマレ	9/5頃	8/15頃	25	1回目の7 ～10日後	20

5 病害虫対策

秋に坪枯れを引き起こす「トビイロウンカ」は、中国大陸からジェット気流に乗って飛来します。福岡県では、5月11日に初確認されて以来、継続的に確認されており、今後の気象条件等により、急激に増殖する可能性があるため、ウンカの飛来状況を踏まえて、8月中旬ごろに基本防除を実施します。

①基本防除（詳細な時期は次号）

品種	剤型	薬剤	適用病害虫	希釈倍数 (10aあたり使用量)
元気つくし ヒノヒカリ ツクシホマレ	粉剤	アプロードモンカットスタークルF粉剤DL	ウンカ類・紋枯病 カメムシ類	3～4kg
	液剤	アプロードロムダンモンカットエアークル＋スタークル顆粒水溶剤	ウンカ類・紋枯病 コブメイガ・カメムシ類	750倍 2000倍

注) 液剤を使用する際の散布水量は、10aあたり100リットルです。

※ アプロード剤に対するトビイロウンカの感受性が低下しているため、スタークル剤と混用して使用してください。

※ ウンカ類への効果を高めるため、防除作業は湛水状態で行います。

※ 箱施薬剤を使用していないほ場では、トビイロウンカの被害が発生しやすいため、ほ場での発生状況を確認し、必要に応じて7月末にスタークル粉剤DL(3kg/10a)またはスタークル顆粒水溶剤(2000倍)を散布し、追加防除を行います。

②2回目の防除は、いもち病対策を含めて出穂前～出穂期に行います。

元気つくし・ヒノヒカリは補正防除、ツクシホマレは基本防除になります。

品種	防除時期	薬剤 (全品種とも粉・液いずれか)	適用病害虫	希釈倍数 (10aあたり使用量)
元気つくし	8/16～21頃	(粉剤) ブラシントレボン粉剤DL	いもち病 ウンカ類	(粉剤) 4kg
ヒノヒカリ	8/25～30頃			
ツクシホマレ	8/31～ 9/5頃	(液剤) ダブルカットフロアブル＋トレボンEW	カメムシ類	(液剤) 1000倍 1000倍

注) 液剤を使用する際の散布水量は、10aあたり100リットルです。

また、カメムシ類対策には、畦畔などの草刈りを行い、農薬散布前に発生を抑えることが重要です。出穂14日前まで(8月上旬ごろまで)に水田周辺の除草を徹底し、カメムシのすみ処を無くしましょう。ただし、イネが出穂してからの除草は、カメムシ類の水田への飛び込みを助長するので行わないでください。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!